

宮城県特別支援教育将来構想実施計画（後期）の取組状況について

目標	自立と社会参加
主な取組	特別支援学校における進路指導充実
事業名	5 特別支援学校進路指導充実事業
担当課	特別支援教育課、県立特別支援学校
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学校地域連携協議会の開催 ○講演会の実施 ○進路支援研修会の実施
取組方針・達成目標	県立特別支援学校に在籍する生徒一人一人の高等部卒業後の自立と社会参加に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促すため、校内の組織体制の整備や労働・福祉等の関係機関と連携、地域や産業界等の人々の積極的な協力を得るなどして進路指導を充実させる。
令和4年度事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導連絡協議会の実施 ・北部〔代表校：石巻支援学校〕，中央〔代表校：西多賀支援学校〕，南部〔代表校：山元支援学校〕の3ブロックに分かれて実施 ○進路支援研修会の実施 ○各学校の進路指導主事を対象に新しい職域（酪農を予定）とのネットワーク作り ○卒業後の支援に向けたアフターケアについての情報交換

目標	自立と社会参加
主な取組	特別支援学校における就業定着支援（優先課題1）
事業名	6（非予算事業）
担当課	県立特別支援学校
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の教育支援計画の作成と活用 ○就労した卒業生に対するアフターフォロー
取組方針・達成目標	県立特別支援学校に在籍する生徒一人一人の卒業後の自立と社会参加に向け、個別の教育支援計画を活用しながら、生徒が必要とする支援を十分に受けられるよう各関係機関（福祉機関、ハローワーク、就労・生活支援センター等）と連携・協力しアフターケアや障害者雇用に係る理解啓発、地域支援等を行う体制を整備する。
令和4年度事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ○進路先への円滑な接続と支援の継続を図る切れ目ない支援体制づくり。 ○福祉サービス事業所及び企業側の新型コロナウイルス感染症予防対策に応じた進路支援の実施。 ○各校の支援の状況、方法等について活発な情報交換。

視察事業名	特別支援学校における就業定着支援【小松島支援学校】	視察実施日	令和4年7月13日
評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> (1) 本事業の取組について (2) 就業定着に向けた学校側の取組について 		
意見・感想	<ul style="list-style-type: none"> (1) 本事業の取組について ○各関係がつながりを持つことで本県における障害者の雇用の「場」が拡大してきていると感じる。 ○作業種・労働時間等が調整された新たな「働き方」が生み出され、障害者雇用がさらに成熟するものと本事業に期待する。 ○障害者雇用への理解促進と、特別支援学校、事業所間での関係作りが図られ、在学中の職場実習や卒業後の定着支援の円滑な実施に結び付く取組と思う。 ○学校と受け入れ企業側が同じ時間を持つことは重要、埋めていかなければいけない問題が山積みだということも分かった。 ○学校内での体制と、社会での子供たちを取り巻く環境が大きく差があり、社会に出てからも学びをしてほしいという教育側の思いと、それが遂行されるような社会づくりが必要である。 ○障害者の就労については多くの課題があり、教育現場や本人の努力、取組では限界があり、きぎゅお側の啓蒙、理解を推進する意味でも素晴らしい取組と期待する。 (2) 普及推進の視点から見た本事業の取組について ○作業種について、今般の事業所の作業内容の傾向を考慮し、オフィスワークを加えるなど、とてもよい取組であった。 ○作業によってはヘアキャップや手袋を使用しており、衛生管理や用具の扱い等を経験・学習させておくことも就業定着につながる大事な視点であると思う。 ○学校では、卒業生のアフターケアを行っているが、卒業してからの生活の方が長いことから、相談窓口等の支援機関についての利用方法など、本人・保護者に理解と見通しをもたせる支援も必要である。 ○障害者雇用に前向きな事業所等が、様々な学習状況や学校内生活の状況を実際に見ることができ、障害者雇用への理解促進と事業所との関係作りが図られ、卒業後の定着支援の円滑な実施に結び付く取組と思う。 ○職場実習で確認された課題・問題について、課題解決・克服のための学校における取組の実例も聞いてみたい。 ○訓練の内容を変化させていく必要があり、時代に沿った訓練を取り入れることにより、社会に出てからの実践へとつながるのではないかとと思う。 		

<p>意見・感想</p>	<p>○就労に向けて計画的に実習が行われており、就職がゴールでないこと、永くいきいきと働き続けられるように様々な取組をしているという学校の方針を理解できた。</p> <p>○学校を卒業してからの期間が長く、本人、家族にとって卒業後どのように生きるかが重要な課題であり、就業定着に向けて保護者の啓蒙のみならず、保護者以外の支援機関の開発を更に検討いただきたいと思う。</p> <p>(3) その他</p> <p>○校内実習や作業学習における指導事項等について、今般求められている力やスキルは何かを点検し、社会とつながりのある授業作りへの取組を行う必要があると思う。</p> <p>○生活を整える力や意欲が不足し、離職するケースがある。その子にとっての課題を見極め、重点化した指導が大切になる。</p> <p>○就業について、キャリアパスポート等を活用しながら保護者の意識も育ていく必要がある。</p> <p>○様々な学習活動を通じて、社会参加と自立に向けた取組が各学年毎に行われているが、学校での学習指導や生活指導の取組は事業所の参考になると感じた。</p> <p>○学校生活での日常を見ることによって気づきや接遇など事業所にとって得るものが多いと思われ、学校見学会に限らず、職場実習の前後など様々な機会に生徒の学校での様子を見れたらと思う。</p> <p>○特別支援学校は事業所での実習の様子を、事業所は学校での様子をお互い知ることによって、更に就業促進・定着が図られると思われる。</p>
--------------	---

視察事業名	特別支援学校における就業定着支援 【小牛田高等学園】	視察実施日	令和4年7月14日
評価ポイント	<p>(1) 本事業の取組について</p> <p>(2) 就業定着に向けた学校側の取組について</p>		
意見・感想	<p>(1) 本事業の取組について</p> <p>○特別支援学校における進路指導、中でも就労定着支援は生徒一人一人の自立のために最も大切なことと考える。</p> <p>○企業と学校をつなぐ事業があることは、学校や家庭にとって本当に心強く、就労移行支援の制度等についても早期の段階から学ぶ機会があればよい考える。</p> <p>○学校での取組や教育方針等について、実際に目にするすることで、生徒の学びを実感し雇用事業者の理解も得られ良い就業につながると思う。</p> <p>○学校側も事業所が求めていることを確認できるいい機会になると思うとともに、体験発表も生徒自身の自信につながり、大変貴重な場だと思う。</p> <p>○特別支援教育の目的は、将来構想に掲げられているように「自立と社会参加」を豊かなものにするものであり、障害者の雇用がなかなか伸びない現状の中、特別支援学校が教育と社会をつなぐ架け橋となりインクルーシブ社会を牽引していると感じた。</p> <p>○取組内容に個別の教育支援計画の活用とあり、高等部段階でどのような内容であれば本人・学校・企業等にとって有効な形になるのか興味深い。</p> <p>(2) 普及推進の視点から見た本事業の取組について</p> <p>○作業に根気強く丁寧に行うことで精神的にも成長すると思われ、様々な分野に個々の特性を見極めながら、支援されるものと思う。</p> <p>○何回かの実習を通し適性を見つけ働く喜びを見つけること、人との関わりを重要視しているということが校内実習の場面を見学し実感した。</p> <p>○障害者に「寄り添う」ではなく「向き合った」支援という言葉にも熱い思いを感じるとともに、ピックアップの実習場の張り紙にも気が引き締まる思いであった。</p> <p>○教職員の本気の取組が生徒に伝わり、学校全体がやる気と希望に満ち溢れてた。</p> <p>○就労は生徒の卒業後の生活を支える生きがいであり、長い人生を支え、就労を確かなものにするために、働くことを通して自尊心と自己有用感を高める指導が展開されていると感じ。</p> <p>○仕事をする自分を誇りに思うポジティブさも感じられ、どの作業学習からも生徒の「真剣さ」「厳しさ」「向上心」が伝わり、生徒の適性を見抜き頑張りたくなる支援を計画的に進める先生方の指導力の高さに感動した。</p> <p>(3) その他</p> <p>○障害者雇用については、本人、家族、教育現場の問題ではなく、社会全体の認識が変わらない限り解決の道はないと考える。</p> <p>○社会的、経済的自立、充実した人生のために働くことは大切であり、ぎゅお性としての社会全体の認識を変える取組をお願いする。</p> <p>○進路先がゴールではなく、卒業後の生活について考えていくという学校の取り組みを理解でき、今後の支援に生かしていきたいと思うとともに、早い段階での関係機関との連携等、切れ目ない支援の必要性を強く感じた。</p> <p>○励まし合い切磋琢磨する関係性の中で学ぶ生徒は、主体的で堂々としており、いつ、だれに話し掛けられても誠実に明るく受け答えができること、すぐにメモを取る習慣や時間厳守など、学校の中でも社会に近い環境設定で教育活動が展開されていた。</p> <p>○学校の本気に共感し、連携や支援を申し出る企業があることなど情熱的な教育活動を見せていただいた。</p>		

主な取組	ICT機器の活用（優先課題2）
事業名	22 特別支援学校プログラミング教育推進事業
担当課	特別支援教育課、県立特別支援学校
事業内容	○モデル校への備品等の整備 ○小中学部の児童生徒1人1台のタブレットPCの整備
取組方針・達成目標	○知的障害特別支援学校（モデル校）における児童生徒の障害の状態や特性に応じたプログラミング教育の指導内容、指導方法の確立及び理解啓発を図り、県立特別支援学校におけるプログラミング教育を推進する。
令和4年度事業概要	○生徒の障害の状態や特性に応じた情報活用能力の育成に必要な指導内容、指導方法について教科横断的に取組事例を集積する。 ○卒業後の自立と社会参加に向け、生活の中でICT機器をAT（アシスティブ・テクノロジー）として活用できるよう基本的操作を身に付けさせる。 ○passwordの管理、情報モラル（マナー）について障害のある生徒が理解しやすいように指導内容・方法の充実を図る。

視察事業名	ICT機器の活用【岩沼高等学園】	視察実施日	令和4年11月29日、令和4年11月30日
評価ポイント	（1）実践内容について（体制づくり、活用状況等）（2）普及推進の視点から見た本事業の取組について		
意見・感想	<p>（1）実践内容について（体制づくり、活用状況等）</p> <p>○iPad入力はキーボードよりフリックの生徒が多いと聞いて、スマートフォンの延長上としてタブレットがあるのではと感じた。</p> <p>○生徒が、書くという行為が苦手であると同ったが、これは障害の有無に関わらない現在の教育課題ではないかと考える。</p> <p>○ペン型入力デバイスも普及しているので実践で活かせるのではないかと考える（今回の視察で見られなかっただけかもしれないが）。</p> <p>○ICTの支援拡充は教育的効果のみならず、障害の社会モデルにおける環境整備や合理的配慮にも大きく寄与するものである。</p> <p>○教育的効果により、今後国や自治体が進める各種手続き等のデジタル化、キャッシュレス化に対応でき社会参加が拡大することを期待する。</p> <p>○今年度、1人1台配備されたiPadを使用して、川崎キャンパスの生徒と意見交換等のやりとりをしながら学習を行っていた。</p> <p>○iPadは、8月から使用しているとのことだったが、どの生徒も操作には慣れた様子で、主体的に取り組んでいた。</p> <p>○ICTを活用した同時双方向型の学習は、離れた場所（本校と分校等）にいる生徒との交流にも有効であると改めて感じた。</p> <p>○生徒たちが主体的に学習に取り組む様子から、ICTの活用は、学習意欲の喚起にもつながる効果があると感じた。</p> <p>○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させるうえで、1人1台端末等の環境を生かし、iPad等の端末を日常的に活用していくことが大切であると感じた。</p> <p>○教員のICT活用指導力を高めるための支援体制を充実させていくことも必要であると感じた。</p> <p>○障害のある生徒に対する合理的配慮という観点からもICTの活用は有効であると感じた。</p> <p>○今後、情報モラル教育・情報セキュリティ教育を進めていくことも重要であると感じた。</p> <p>○教師による事前準備に十分な配慮がされており、清掃活動や通常授業でもiPadを活用して行われている。</p> <p>○修学旅行委員会のオンライン交流学習においても有効的な取り組みが成されている。</p> <p>○iPadの操作も理解度が高く、好んで使用している様子が窺える。</p> <p>○ICT機器の活用は、時間の短縮や知識の習得・コミュニケーションを語るにも有意義であると思う。</p> <p>○ICT機器を用いることによって初めて可能となる活動、ICT機器を用いることによって効率的となる、あるいは新たな広がりが期待できる活動、ICT機器を用いても用いなくとも実行可能な活動といった、例えば活動の面から見たときに、授業ないしは教育活動のどのような側面、内容に関してICT機器をどのように活用することで、生徒の学び、教師の教えに何が生じるのかを整理が必要である。</p> <p>○音楽や美術などの実技科目において、タブレットの使用を工夫している様子が見られた。</p> <p>○音楽の授業では、本当にタブレットが必要だったのか、疑問に感じた。演奏方法が複雑な楽器や、譜面が難しい楽曲であれば、授業で行っていたように演奏の動画を見せることで効果があるかもしれないが、今回用いた単純な楽曲をキーボードや木琴で演奏するのであれば、むしろ楽譜を呈示する方がリズムや音の高低が視覚的にわかりやすかったと思う。</p> <p>○校内体制として、生徒一人一人に端末を持たせて活用していくことを大前提に進めていることがよく分かった。生徒たちも、授業の中でお互いにアドバイスをしたり教員からのアドバイスをもらったりしながら、自分に合った活用をしているように感じた。</p> <p>○美術の授業で行っていたコマ撮り映像の作成を視察し、新しいツールの可能性に積極的にチャレンジしていると感じた。生徒達の豊かなイメージをダイレクトに映像に代える授業は、生徒たちにとっては達成感を実感できるものになっており、指導者も楽しめるのもこのツールの魅力。</p>		

意見・感想	<p>(2) 普及推進の視点から見た本事業の取組について</p> <p>○当日配布いただいた校内授業研究会の資料にも記載があったが、スマートフォン等に慣れているデジタルネイティブ世代ということもあり、タブレットも使い慣れている様子であった。</p> <p>○一方で学校側から話があったが、セキュリティやネットリテラシーなどの課題もあるようで、当日お聞きできなかったが、生徒のプライベートにおけるSNS利用率を知りたかった。</p> <p>○個々にiPadが利用できるのは好ましい。同時進行で情報や操作方法が共有できてよい。</p> <p>○ICT機器の活用は、普段消極的な生徒も、積極的・主体的に授業等に参加できる面があり、能力向上にもつながる。</p> <p>○一方で、ICT機器の活用を促進するものであっても、自ら考えることや、他人とのかかわりも大事にしてもらいたい。別の媒体、書物や聞き取りでの検索の仕方や、対人関係の在り方なども身に付けてもらいたいと思う。</p> <p>○生徒一人ひとり（あるいは集団として）の諸属性、学校の学修・教育環境などを関連づけると、県内各校で参照できるものとなるのではないかと思う。</p> <p>○ICT機器は、生徒たちの将来において、サバイバル・ツールともなっていくものと思う。そのような視点から、高等部段階で学んでおくべきこと、身につけておくべきことについても整理が必要。</p> <p>○ICTの活用によって、学習効果が見込まれる場合には積極的に活用すべきだが、従来の指導法で十分な場合には、あえて用いる必要はないと思われる。</p> <p>○どの授業においても個人レベルでタブレットを活用していたが、教員用PCまたはタブレットに生徒のデータを送り、電子黒板に上映して全員で鑑賞しあうなど、少人数であることを活かして互いに確認し合う場を設けることで、生徒同士の学び合いを深めることができたとあろう。</p> <p>○軽い知的障害のある生徒に対してのICT活用の在り方について、校内研修として教員同士での共通理解を図っていることで、お互いに安心して（確認しながら）学習活動への活用を進めていける状況にあると感じた。</p> <p>○一人一人がICT機器端末を活用することによるデメリットの部分（夢中になりすぎる、使用することへのこだわり、ネット利用でのトラブル等）に対してどう対応していく必要があるか、ということについては今後全体で協議していく必要があると感じた。</p> <p>○他の特別支援学校における活用状況についても、随時確認が必要であらう。</p> <p>○情報の授業で行っていた技術を使えば、自分だけの高等学園記念アルバム（DVD）を作成でき、iPadで撮りためた写真に加え、仲間や教員に撮ってもらった自分の映像を加えれば、自分中心の高校生活の記録になる。支援学校だけでなく、高等学校にも活用例として広めて良いのではないか。以前古川支援学校で大崎市内の小中学校にも案内を出したように、ICT活用例見本と称して、直に体験できる展示会を行ってはどうか。</p> <p>(3) その他</p> <p>○先生方のご努力とともに、生徒さんたちが生き生きと楽しそうに学んでいる姿が印象的であった。</p> <p>○ICT活用が目的ではなく、ICT機器はあくまでも学習支援のための補助的道具であるという認識を持つ事が必要と思われる。</p> <p>○校内においては、インターネット検索に制限を設けトラブルの防止がされているが、家庭等では十分なセキュリティ対策は不十分なため、生徒には十分に注意を促していただきたい。</p> <p>○コミュニケーション障害のある生徒に対して、ロールプレイングゲーム（会話を重ねていく）ソフトがあるそうなので、通級指導が対面で行えないときに活用できるのではないかと考えました。</p> <p>○ICTに頼りすぎることの弊害も言われているが、今は可能性を広げていく時期であらうと理解している。取捨選択するのは5年程度実践を繰り返したあとで良いのではないのでしょうか。</p>
-------	---

主な取組	県立特別支援学校の在り方検証（優先課題2）
事業名	28（非予算事業）
担当課	特別支援教育課
事業内容	○視覚支援学校への幼稚部設置 ○聴覚支援学校の学科再編の検討 ○通学区の再編，各県立特別支援学校の在り方を検討
取組方針・達成目標	○視覚支援学校の幼稚部は校舎の改築時に合わせた設置を目指す。 ○聴覚支援学校高等部への普通科設置及び専攻科の学科再編について，令和4年度までに検討する。 ○県立特別支援学校の児童生徒数の推移や障害等の状況の変化，社会動向等を踏まえながら令和2年度中に通学区の再編と各学校の在り方を検討する。
令和4年度事業概要	○視覚支援学校の幼稚部は校内設置準備委員会での当課指導主事による指導助言や募集要項の調製などを進める。 ○聴覚支援学校の学科再編は，教育課程や必要な施設設備等をまとめた基本方針を策定し，令和6年4月開設を目指す。 ○小松島支援学校松陵校への高等部設置に向け，設計に着手する。 ○県立特別支援学校の狭隘化について追加対策を検討し，「第2期県立特別支援学校教育環境整備計画」に盛り込む。

視察事業名	県立特別支援学校の在り方検証【利府支援学校】	視察実施日	令和4年7月15日，令和4年7月19日
評価ポイント	(1) 狭隘化の現状について (2) その他		
意見・感想	<p>(1) 狭隘化の現状について</p> <p>○県立特別支援学校の狭隘化は，本構想の策定段階からの議論であり，その改善が最重要課題と位置付けた経緯があり，今回，現状の困難を再確認した。</p> <p>○2017年にも視察したが，当時と同様の狭隘化と，さらに経年的な劣化など，十分とは言い難い施設設備の現状強く意識した。</p> <p>○本構想審議会として，さらなる取り組みを県教育委員会に求める必要があることを再確認した。</p> <p>○本校については，特別教室の転用やプレハブ校舎設置等で教室不足を補っているが安全面や衛生面でも問題があると思われる。</p> <p>○2つの分校設置によって，本校の在籍生徒数は幾分減らせたが，本校の施設設備等に改善は図られていないように感じた。</p> <p>○体育館が狭く，校庭には仮設校舎が建てられ，更には簡易プールで活動している現状であることから十分に運動できる環境ではない。</p> <p>○送迎用の通学バスや放課後デイサービスの状況から見て，校門から昇降口までのアクセスや駐車場の狭さが大きな課題である。</p> <p>○先生方の丁寧な対応と近隣住民やバス運行会社の配慮によって，スムーズに進められているものの，人的な対応には限界があり，事故が発生しないような施設拡充が必要と感じた。</p> <p>○小高い丘の上にあるため校地面積に限りがあり，これ以上の施設を拡充していくことは困難であるため，今後計画的な対策を練ることが重要と感じた。</p> <p>○元々あった校庭にプレハブ校舎を建てているため，校庭の狭さに驚いた。体育館も現在の人数で設定していないため，割り当てに苦労している様子であった。</p> <p>○先生方が手作りの遊び道具を作成し，創意工夫の授業を行われていると感じたが，物を置くスペースがない状況。</p> <p>○地元の学校の環境が整い通学できれば，子供の負担も少なく，周りの障害への理解が進みインクルーシブ教育が進むのではないかと。</p> <p>(2) その他</p> <p>○コロナ禍のため，対人的な距離を以前以上に確保することが求められる中で，学習活動と対人距離の確保といった両立し難い状況を先生方の工夫により，乗り越えようとしている現状には頭が下がる思いであるが，狭隘化という本質的な課題の改善以外に解消し得ないという点を再確認する必要がある。</p> <p>○医療的ケアの対象児童生徒とそれ以外の児童生徒が同じ教室等で学習に参加している。対象児童生徒を一定の人数集め対応する方が，管理的には容易であるが，あえて学年等を基準にクラス・学習グループを編成し，児童生徒の多様な障害の状況を踏まえつつ一緒に学習することは支援学校内のインクルーシブな対応であると評価できる。</p> <p>○校舎の傷みも目立ってきている。狭い敷地では，これ以上の増築は困難であり，関係市町との連携も大事にしながら新しい土地を求めることも必要な気がする。</p> <p>○分校に小・中学部の児童生徒が在籍している角田支援学校白石校と同様の形態の分校を増やすことも考慮してはどうかと思う。また，高等部についても，高等学校の空き教室等の活用も考えられる。</p> <p>○児童数増を富谷校と塩釜校で対応している現状であるが，今後も児童数増が想定され，両校においても教室等を拡充していかなければならない状況である。</p> <p>○人的な力で解決していくには限界があり，教育関係者だけでなく，行政関係等の方々にも現状を理解してもらい，仙台圏内の支援学校の施設整備に尽力していただければと思う。</p>		